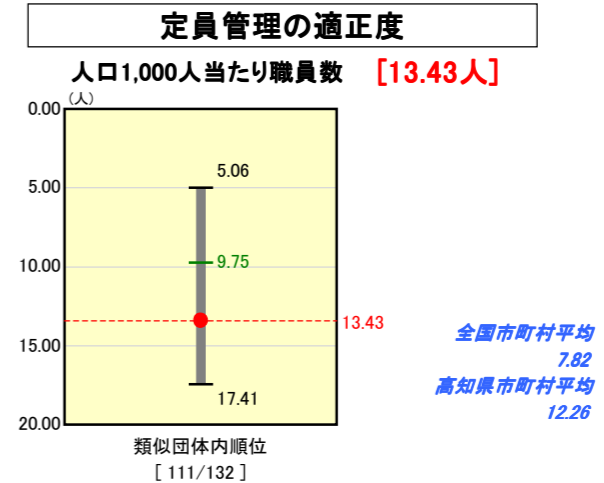
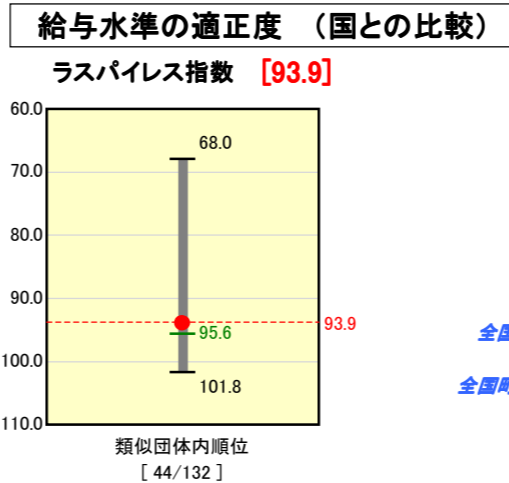
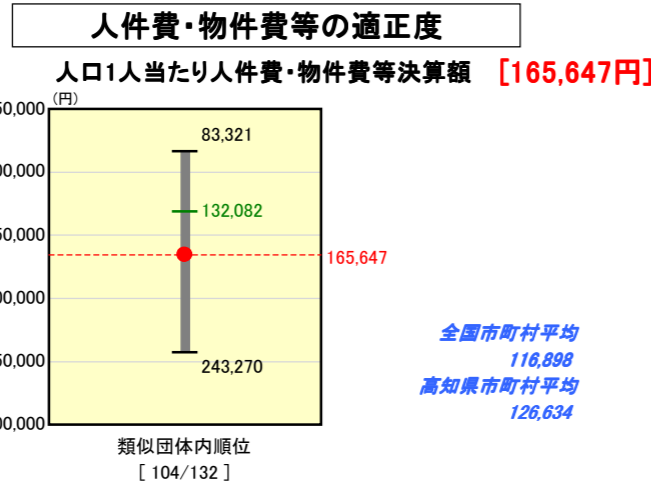
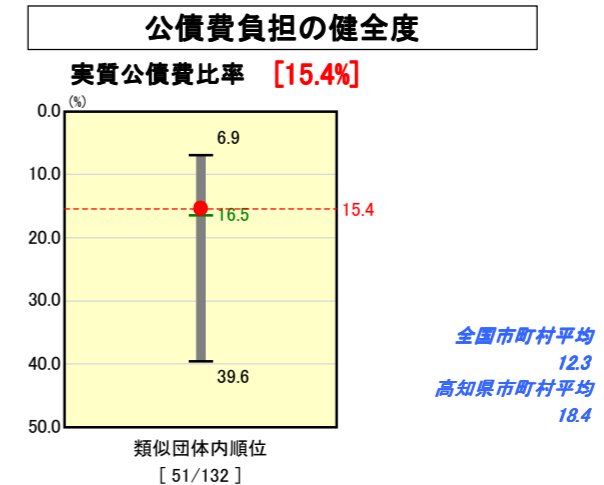
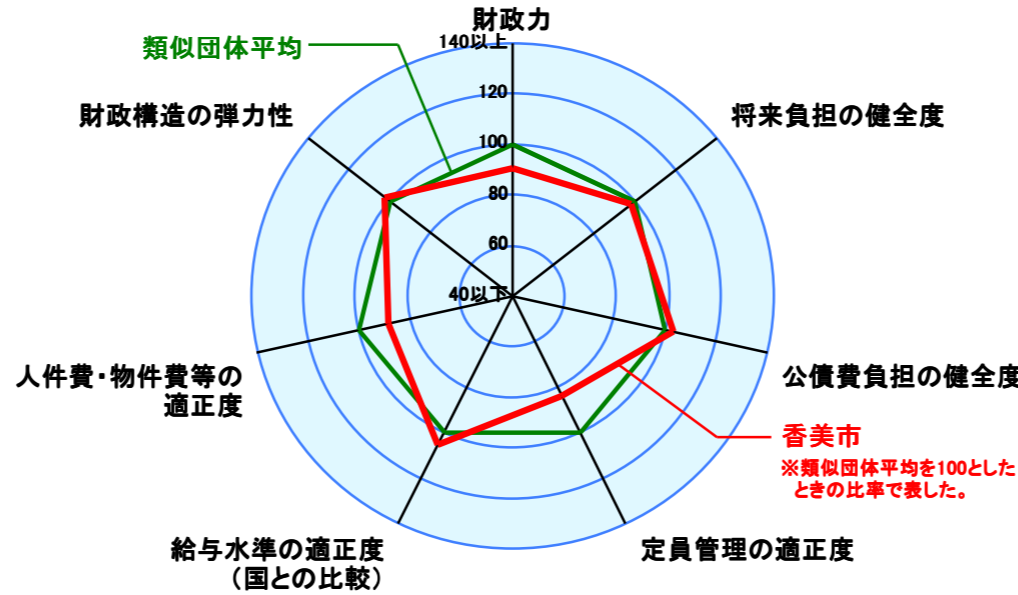
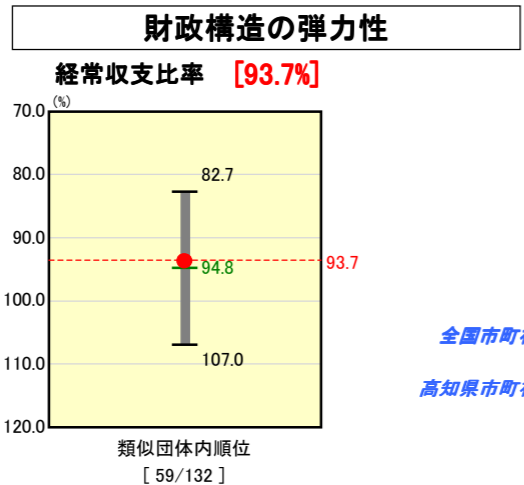
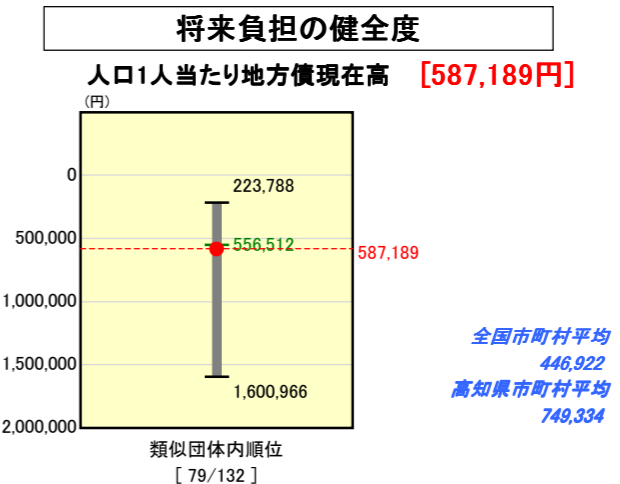
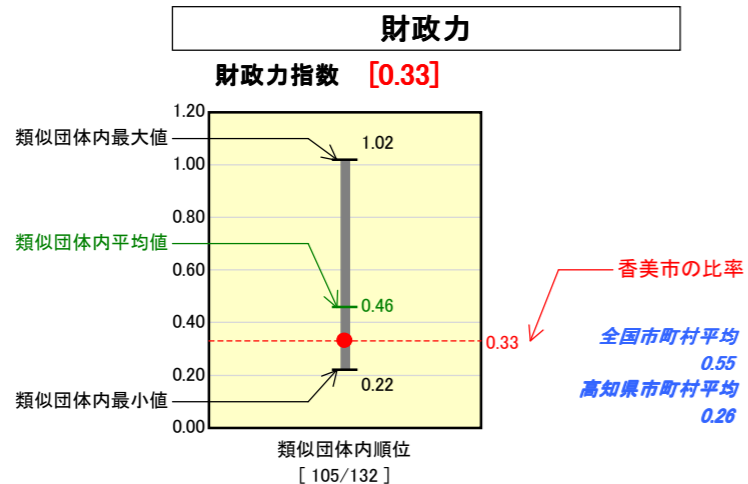


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 高知県 香美市

人口	29,038	人(H20.3.31現在)
面積	538.22	km <sup>2</sup>
歳入総額	15,630,801	千円
歳出総額	14,958,620	千円
実質収支	617,513	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。  
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。  
※ラスパイレース指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

### 分析欄

【財政力指数】人口の減少や全国平均を上回る高齢化率に加え、長引く景気低迷による個人・法人関係の税収が伸びていないことなどから、0.33と類似団体平均をかなり下回っている。今後、税収確保の観点から生産年齢人口の増加につながるような有効な施策を検討する必要がある。

【財政構造の弾力性】経常収支比率は前年度89.9%が93.7%に上がったのは、歳出で老人保健特別会計繰出金の増加や歳入で普通交付税等が減少したことが影響している。しかしながら、常に財政構造に弾力性があると言われる75%を大きく超えているのは、公共施設の多さによる維持費や扶助費の増加などが経常経費を押し上げていることが要因となっているため、今後においても適正な課税客体の把握による税収確保と税等の徴収率向上に努めるとともに、人件費等経常経費の削減に努め、経常収支比率の低下を目指す。

【人件費・物件費等の適正度】類似団体に比べ高くなっているのは、主に人件費や施設の維持管理経費が要因となっていることから、集中改革プランの確実な実行等により、経費の抑制に努める。

【給与水準の適正度】ラスパイレース指数は類似団体平均を下回っているが、年功的な要素が強い給料表の構造となっており、人事評価システムの早期導入により、職務・職責に応じた棒給構造への転換、勤務実績の給与への反映の推進を図る。

【公債費負担の健全度】実質公債費比率は類似団体平均を下回っているが、今後、庁舎建設をはじめ保育園建設や公共施設の耐震化等の大型事業が控えているため、計画的な借入により他事業における地方債の新規発行の抑制に努める。また、補償金免除繰上償還制度を活用し、高金利の地方債を低金利に借換え、財政健全化に努める。

【将来負担の健全度】人口1人当たり地方債現在高は類似団体平均を上回っている。継続事業に加え、今後、庁舎建設や保育園建設等の大型事業を予定していることから、他事業における地方債の発行の抑制等により、現在の水準を上回らないよう地方債管理を行う。

【定員管理の適正度】職員数は町村合併により職員数が膨らみ類似団体平均を上回っている。集中改革プランの定員適正化計画に基づき退職者数の2分の1の採用等により、平成17年度から平成21年度までに職員数を12人・2.8%削減することに努めている。